

Jivaro Pro

高度な寄生素子リダクション

SILVACO

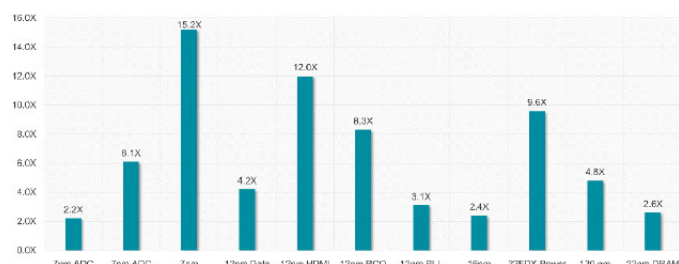
概要

Jivaro Proは、寄生素子ネットワークのリダクションに特化した独自のスタンドアロン型ソリューションです。Jivaro Proは、レイアウト・バック・アノテーションによる検証時、高精度を維持しながら、抽出された膨大な寄生素子回路のポストレイアウトSPICEシミュレーションを高速化するのに役立ちます。Jivaro Proは、高精度を維持しながらも、回路シミュレーションを最大15倍高速化できることが実証されています。

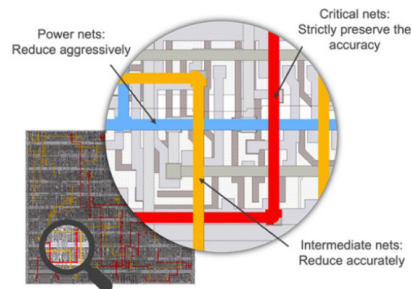
Jivaro Proは、世界の主要なIDMおよびファブレス企業で、3nmまでのテクノロジー・ノードに採用されています。Jivaro Proは、特許取得済みの数学的アプローチを適用してMORを実行し、寄生素子の複雑さを軽減します。ルールベースの手法とは対照的に、Jivaro Proでは、設計者は精度とリダクションのトレードオフを行うことができ、ユーザーはそのメリットをコントロールすることができます。

Jivaro Proは、使用する抽出ツールやシミュレーションツールに依存せず、あらゆる設計フローに直接プラグインできます。Jivaro Proには、スピードと精度の結果を幅広くコントロールするためのパラメータがすべて含まれています。迅速な実装と使いやすさを実現するため、Jivaro Proには、設計環境に適応して最適化する自動モード機能が搭載されています。Jivaro Proは、ネットレベルとブロックレベルの両方で、デザインの異なる部分に異なるしきい値を適用して、リダクションを最適化できます。また、アクティブデバイス数の削減により、より多くの効果を得ることができます。大規模なパワーネットワークも含め、あらゆるタイプの抽出がサポートされています。

Jivaro Pro シミュレーション・アクセラレーション



リダクション目標 - ネットとブロックレベル



主な特長

- R、RC、RCC、RLC、RLCK、電流源に対応
- 温度依存の寄生素子ネットワークとマルチコーナ抽出ネットリストのリダクションが可能
- ネット、サブ回路、または階層内の任意のパスを選択的にリダクションが可能
- マルチフィンガー・アクティブ・デバイスをマージし、ダミー構造を除去可能
- 高度な機能をトリガする自動リダクション・モード

利点

- 最も困難なケースにおいても、精度を保持したポストレイアウトのSPICEシミュレーションを最大15倍にて高速化
- プラグアンドプレイ・ソリューションにより、既存のフローにシームレスに統合可能
- 精度の目標に合わせてリダクションが可能
- シミュレーションのランタイムを犠牲にすることなく、抽出にパワー・ネットやメタルフィルを含めることで精度を向上

入力

- DSPF
- SPEF
- SPICE
- CalibreView寄生素子ネットリスト
- OA抽出ビュー

対応OS

- Red Hat Enterprise Linux 7.9, 8.X: x86_64
- SLES12 (SP5): x86_64